

## 多感な若い時により刺激を！

この1月、母校(長野県立伊那北高校)の英語クラブの後輩が英語ディベート世界大会のため南アフリカのケープタウンに向かう——こんなニュースが昨年の暮れ、郷里の同期仲間から新聞報道のコピーと一緒にメールで送られてきました。先輩として嬉しい便り。私はすぐにお祝いと激励のメッセージを送りました。



伊那北高校英語部の皆さんへ

世界大会への出場おめでとう。英語部の先輩として嬉しいです。私は半世紀以上も前の部員でした。当時は文化祭に英語劇をするのが主な活動で、一年上の先輩は「ベニスの商人」、我々は「青い鳥」を演じました。私は「A horse for sale!」の台詞だけを何回も繰り返しながら舞台に出ていたことを思い出します。

その後、大学(早稲田)を卒業すると国立にあるNHK学園高校の教諭、新聞社の特派員として10年ほど海外(中南米)駐在を経験しました。定年後の現在は、シルバー人材センターで理事や各種の仕事をしていますが、現在、大人向けの英会話教室立ち上げの準備をしているところです。ほかに海外留学アドバイザーや在日外国人支援のボランティア活動などもしています。それと、定年後のライフワークと定めた世界文学紀行の取材で、年に1回か2回、作品の舞台の国を訪れているところです。

現役中はスペイン語を使う機会の方が多かったので、英会話教室のオープンに際し、再度自分の語学力を磨かねばと、先ごろ英検(1級)とTOEICを受験してみました。結果は若い時より力が落ちている。「ようし、ならば！」と近々に再挑戦しようと思っています。

皆さんは私の伊那北時代よりはるかに力があるし、勉強環境も半世紀前と比べて格段に良くなっていると思います。自分のこれまでを振り返ってみても、少しでも英語ができたことが大きく道を開いてくれたことを実感しています。まして今、世界のネット上の言語の70%近くが英語であることを思えば、これからの皆さんの活躍の舞台は限りなく広がっていくでしょう。



長々と自分のこと、また駄文を書いてしまいましたが、素晴らしい後輩の皆さんへの少しでも励みになればとの思いからです。ケープタウンでは伸び伸びと存分に力を発揮してきてください。そしていっぱい楽しんできて！！

第11回卒業 清水 武 (原文を少し直しています)

結果は上位入賞は難しかったようですが、多くの経験を積んできたようです。多感な若い時により刺激を受ける大切さ！実は、私が英語を好きになったのは、中学時代に先生が美しい桜の写真の載った少年向けの英字新聞を見せてくれたこと、本を読むようになったきっかけは、学校図書館から借りた「三銃士」でした。ガスコーニュの片田舎から花の都パリに出てきた主人公ダルタニアンが無鉄砲ながら胸のすくような活躍。その物語の面白さに惹かれて読書の習慣がついたような気がします。

そして今、青春時代に愛読した作品の舞台を回っている。これまでにシェクスピア、ゲーテ、ヘッセ、トルストイ、セルバンテス、ミッチェル、モンゴメリなど10作品を超えました。おりしも今年は「三銃士」と「レ・ミゼラブル」の舞台フランス訪問を予定しています。



若さはバネであり、創造です。若いときの刺激やきっかけほど大切なものではありません。そんな思いを胸に、自分も若者の啓発に少しでも力になればと、いつも心に留めているところです。